

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、語、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和7年10月10日(金)

【愛語録】「頑張ってる人は見えないところで努力している。いつも笑ってる人は見えないところで泣いている。優しい人は見えないところで我慢している。 そんな人になりたいな。」

(野原ひろし: マンガ「クレヨンしんちゃん」より)

SNSの危険性を抑える

今回のSNSとは、主に「LINE」についてお話してみよう。私達は、LINEのSNSの危険性を抑える。情報発信に伴う危険を意識しているものの、自分事として捉えられているかは疑問です。SNSのツールが日常に溶け込んだ結果、その危険性について意識できなくなっているように思えます。それが問題の起る原因だと私は考えています。今回の話は、是非とも子ども達にも読んで欲しい。周りの友人、保護者仲間の皆様に伝えたいと思っています。特に「日常にスマホが溶け込んでいる人」は、熟読して欲しいと思います。SNSは扱いを「歩間違えたら、非常に危険なツール」です。現代に於いては「情報をもたらし、影響力」は、ほぼ強いのです。

① 全世界発信である怖れ

SNSとは、基本的には全世界に向けて発信されます。いわゆる街角でTwitterやFacebookでの投稿は、設定によっては自分の現在地を知られる可能性があります。友人に対して「今日どこにいますか」と伝えたいだけだったかもしれませんが、それが同時に、他人に対して「私はここにいます」と発表しているのと同じなのです。これが自分でなければ、また救いようがありません。ですが、「夕食など」なんてTwitterに位置情報が付いていたり、それは「私の家はここにいます」と公言しているのと同じです。もしかしたらいきなり見知らずの人が、家を特定して「ハイハイ」しながらジッと部屋を見たり、呼び鈴を鳴らしたりするかもしれません!! 怖い。写真を投稿するのは危険なことなのです。

② 位置情報はプライバシーを脅かす

TwitterやFacebookでの投稿は、設定によっては自分の現在地を知られる可能性があります。友人に対して「今日どこにいますか」と伝えたいだけだったかもしれませんが、それが同時に、他人に対して「私はここにいます」と発表しているのと同じなのです。これが自分でなければ、また救いようがありません。ですが、「夕食など」なんてTwitterに位置情報が付いていたり、それは「私の家はここにいます」と公言しているのと同じです。もしかしたらいきなり見知らずの人が、家を特定して「ハイハイ」しながらジッと部屋を見たり、呼び鈴を鳴らしたりするかもしれません!! 怖い。写真を投稿するのは危険なことなのです。

③ 間違えた使用方は人生崩壊の元

SNSを使うことが危険なのではありません。正しい使い方をすれば、SNSでの危険度は低くなります。しかし、「一歩間違えれば人生を狂わせるほどの影響力がある」というのも、決して忘れてはいけません。友だちの事を誹謗中傷するやうなことは絶対にダメです。友人を失い、果ては事件事故、犯罪にまで発展します。情報とは、それほども強い力を持っているのです。

シリーズ「自分を語る」#41

10月、いよいよ職場復帰です。年度を跨いで休んでいましたので、もう浦島太郎のような気分でした。しかも、入院前と同様の「重症心身障がい」部の所属でした。ここは同僚職員からサポートしてもらいました。本来、子ども達を抱えることができなかった仕事にはなないのですが、私が担当する児童は必ず、他の職員が抱えてくれました。お陰で私は勤務するまで、子どもを抱え上げることは無く、背中を支える程度の負担しかかかりませんでした。それも良いリハビリになったように思っています。

順調に仕事を復帰、慣れてきた頃、私は次の異動を考え始めました。小学校を希望するが養護学校を希望するからです。私は、少々迷いましたが小学校を希望しました。腰の不安な小学校の先生になりたいという子ども達の頃の夢を、総合的に考え判断した結果でした。それから暫くは、異動に関する話もありませんでした。それよりも重要視したのは、子ども達に「異動」に関心を持ってもらうことでした。そのために、子ども達に「異動」に関する話を、保護者や仲間と話し合いました。元来、人への話は嫌いなわけではないので、あつこい頃に保護者や仲間と話し合っていました。当時、教員の子の家で飲み過ぎで酔いつぶれてそのままだらでそこから出勤したという話もしてはいました。この時期は、保護者との連携の大切さが、何となく大切だということに気が始めた時期だと思っています。

そして10月、いよいよ女子で保護、保護者の方々と別れた日が来ました。

異動に関しては当時、希望を出すのに少し考えたことを思い出します。私の場合、何処に行っても「住めば都」で、その環境に慣れるに慣れています。だからこそ、自分の将来の身の振り方について真剣に考えていたつもりでした。

さて、気になる異動先は上益城郡嘉島町にある嘉島西小学校でした。前年度まで養護学校だったので、また新たなスタートを切る訳です。早速、あいさつに行きました。嘉島町には親戚が住んでいたため、何となく愛着を感じた場所でした。

校長室に。

「澤田先生、ようこそ嘉島西小学校へ来てくださいました。先生には一つ大きな仕事を任せて頂かなくてはなりません。特別支援学級の立ち上げです。希望せめてもらいますが、この1年は立ち上げに専念して頂きたい。」

この時は少々迷いました。しかし、新しいことにチャレンジするとは楽しいものです。黒石原養護学校での経験を少しでも活かすことができればと考えていました。しかし、まともに勉強していなかったため専門知識に乏しく、当時は「知識を活かす」というより、「新しい知識を得る」時間だったのかもかもしれません。しかも、小学校での研修は全く受けないまま小学校に再配されているので、小学校の専門知識もな、毎日何かしら本を読み知識を得ていた時間でした。仕事が終わる帰宅しても、酒を飲むでもなくテレビを見てもなく、日々、教員書ばかり読みました。この頃が一番勉強したなと思います。(11)